JAMFI
日本顎顔面インプラント学会 ニューズレター
Newsletter No.10
発行：公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会　理事長／嶋田 淳　URL：https://www.jamfi.net/　2024年7月22日発行

Contents

P.1　《巻頭言》　日本顎顔面インプラント学会 理事長 嶋田 淳
P.3　《常置委員会の紹介》
P.4　《各種委員会報告》　専門医制度委員会、専門医資格認定審査会、研修施設資格認定審査会、総務広報委員会、教育研修委員会、雑誌編集委員会、定款（会則）検討委員会、用字用語委員会、財務委員会、会員データベース管理委員会、医療委員会、研修カリキュラム委員会、渉外委員会、学術委員会、倫理委員会、薬剤関連調査委員会、脱タバコ社会実現委員会、診療ガイドライン作成委員会、賛助会員制度促進委員会、診療マニュアル作成委員会、広告のできる専門医推進委員会、共同研究委員会（日本顔面補綴学会）、感染症対策委員会（名称変更）、社会保険委員会
P.15　《付録 令和6年度診療報酬改定》
P.17　《総会・学術大会の報告》　第27回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会
P.18　《総会・学術大会のご案内》
第28回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会
第29回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会に向けて
P.20　《2024年以降のインプラント関連学会案内》
P.21　《研修施設紹介》
①東京医科大学病院 歯科口腔外科 顎顔面インプラントセンター
②島根大学医学部附属病院 歯科口腔外科・顎顔面インプラントセンター
P.23　《会員情報》
《事務局からのお願い 》
P.24　《教育研修会のご案内》
P.25　《顎骨再建とインプラントによる治療指針発刊のご案内》
P.26　《編集後記》

《 巻頭言 》日本顎顔面インプラント学会の広告可能な専門医取得への挫折と希望

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会
理事長　嶋田 淳

公益社団法人日本顎顔面インプラント学会は、前身の日本顎顔面臨床生体材料研究会として1993年に発足した歴史を加えると今年で31年目を迎え、論語の「子曰く、三十にして立つ（三十而立）」からすると、まさにインプラント学の領域で而立し、学問を究めている必要がある歳でしょうか。2018年に瀬戸晥一先生から理事長職を引き継ぎ、3期6年目をむかえています。この間、広告可能な専門医の認証に向けて、専門医に相応しい、専門医として恥ずかしくない日本顎顔面インプラント学会を構築することを目指して活動してきました。昨年までに、インプラントの治療指針とマニュアルを出版できたことは一つの成果でしょうか。

広告可能な専門医は当初は厚生労働省の指導の下、公益社団法人日本口腔インプラント学会と幾度とない折衝を重ね、いざ認定試験を実施しその後名簿に収載という手筈直前まで進みました。しかし、その試験実施となる直前で日本口腔インプラント学会側からすべて反古にするという常識外れの申し出があり、中断となりました。顧みると、折衝の間、それまでに都合3回も日本口腔インプラント学会側の態度が否定的な方向に変わったことがあったことを思い起こすと、そもそも性格の異なる両学会が同一の専門医制度を構築することが無理だったのかとも強く思います。合同の広告可能な専門医を目指して両学会での協議が始まった際に、そんなどうしようもない学会と一緒にやって片棒を担ぐなら、もう日本顎顔面インプラント学会にはいられない!と理事を辞された先生もおられました。その際の酷く打ちひしがれた気分を思い出します。両学会の決裂の際は理由も判らず、ただ憤りだけが残った交渉でしたが、決裂した理由に

ついては、昨年の日本口腔インプラント学会の施設長会議で、簗瀬理事が「あのときは私がぶち壊しました」と公式の会議の場で突然公言したのには開いた口も塞がらない瞬間でした。その際に日本口腔インプラント学会の施設長から何の叱責も質問もなかったことは更なる驚きでした。

そんなこんなで両学会と厚生労働省歯科保健課との間でなされていた相談も中止となっていましたが、その後も両学会での協議を再開することを模索し、洗足にある大学の学部長室に理事長を訪ね、お願いをいたしたりしておりました。患者さんのための専門医制度を是非まとめたいという思いがあり、また厚生労働省歯科保健課から、良識のある日本顎顔面インプラント学会が、インプラント専門医制度を作るにあたりぜひ「保険」としての立場を取っていただきたいという非公式の話しに男気を感じ、また前々日本口腔インプラント学会理事長の渡邉先生と日本顎顔面インプラント学会前理事長の瀬戸先生との間で始められた合同の広告可能な専門医をなんとか纏め約束を果たしたいという気持ちも常にありました。その後、インプラント治療が国民の間で広く普及した必然性があり、患者諸氏がインプラント治療を受ける際に受診の選択の基準となるというと必要性を目標に掲げた日本歯科専門医機構が発足することになり、再度両学会での広告可能な専門医の認定に向けて協議が始まり、今日に至っています。

その日本歯科専門医機構との協議の間に、法律の改定があり、広告可能な専門医として新たに補綴、保存、矯正、インプラント、総合の5領域が追加されることとなり、自費診療主体のインプラント治療の専門医が基本領域10に含まれたことは画期的なことです。日本歯科専門医機構の先生の話では、予てから両学会でインプラントの専門医について話し合いを重ねてきていた事実が厚労省に認められて、インプラントが基本領域に加わることになったそうで、決裂はしたが合同の話し合いを続けていたことは無駄でもなかったことになるのでしょうか。

現在は両学会から二名ずつの委員が参加し、日本歯科専門医機構の指導と仲介のもと話し合いが継続しています。日本顎顔面インプラント学会からは矢島先生と藤井先生、二人の常人理事が2+2のワーキンググループ協議に参加し、粘り強く討議を続けてきてくれました。藤井先生は、毎回の日本歯科専門医機構での協議内容を録音し、一字一句文字起こしをし、日本顎顔面インプラント学会の委員会に回覧し、問題点を把握し、機構からの宿題を纏め、次の協議に備えるという、常人ではできないような大変な尽力をしていただいております。また矢島先生は、宿題の回答をいつも期限通りにきちんと提出して来ず、日本歯科専門医機構からの提案にぬらりくらりと抵抗を続ける日本口腔インプラント学会側の委員に正論を突きつけるという重要な役割を担っていただいております。これまでに研修目標（カリキュラム）と研修方法（研修手帳）が決まり、今後研修施設について話し合いが行われることになっています。

現在研修方法について、専門医を目指すためには研修施設に所属し、かつ週3日以上の常勤医として研修する必要があることが決定されています。この要素というのは、全国から会員が参加している日本口腔インプラント学会の臨床系研修施設には当てはめるのが困難な条件で、日本口腔インプラント学会は学会自体の構成を変化させる必要が生じます。要するに現在の臨床系研修施設はそのままでは専門医を教育できないことになります。日本口腔インプラント学会は臨床系研修施設を解体して、新たにOJTが可能な研修施設に改変するか、新生する必要があります。歴史があり、認定講習会を主体として活動している日本口腔インプラント学会の臨床系研修施設は、認定講習会を行えなくなれば研修施設自体の存続に係わる問題となるかもしれません。臨床系研修施設の存続を守るために日本歯科専門医機構での広告可能な専門医への参画を諦めるような重大な困難が生じるかもしれません。日本顎顔面インプラント学会はプロフェッショナルオートノミーに立脚して日本歯科専門医機構の指導のもと、国民に信頼される専門医制度を目指して活動していくことは間違いありません。昨年の補綴専門医に続いて、保存、矯正の専門医も機構での審査を終えた段階にあり、インプラント歯科専門医はその次になりそうですが、大分ゴールも見えてきたところです。いま暫く見守ってください。

《 常置委員会の紹介 》

2024年4月1日、公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 常置委員会新規および継続委員長が理事会において承認されました。各委員会委員長により副委員長および委員が選出されました。

「常置委員会・委員長・委員」一覧 （2023年4月1日）

● **専門医制度委員会** （専門医制度規則により9名以内）
委員長　加藤仁夫
副委員長　藤井俊治
委員　小倉 晋、河奈裕正、矢島安朝、立川敬子、廣田 誠、茀生田整治　髙森 等（名誉会員）

● **専門医資格認定審査会** （専門医制度規則により8名以内）
委員長　福田雅幸
副委員長　野口 誠
委員　矢郷 香、松尾 朗、小林正治、管野貴浩、山下佳雄、金子貴広

● **研修施設資格認定審査会** （専門医制度規則により6名以内）
委員長　日比英晴
副委員長　栗田 浩
委員　長尾 徹、柳井智恵、代田達夫、村田 勝

● **総務広報委員会**
委員長　又賀 泉
副委員長　矢郷 香
委員　石垣佳希、小林正治、宮本郁也、丸川恵理子、茀生田整治、木津康博

● **定款（会則）検討委員会**
委員長　野口 誠
副委員長　松尾 朗
委員　矢郷 香、山下佳雄、吉村仁志、岡本俊宏

● **財務委員会**
委員長　長尾 徹
副委員長　近津大地
委員　佐藤淳一、矢郷 香、黒岩裕一朗

● **教育研修委員会**
委員長　矢島安朝
副委員長　山下佳雄
委員　福田雅幸、城戸寛史、廣安一彦、佐藤 聡、武知正晃

● **雑誌編集委員会**
委員長　野口 誠
副委員長　山下佳雄、古谷義隆
委員　加藤仁夫、福田雅幸、立川敬子、小倉 晋、小山重人、関根秀志、代田達夫、加倉加恵

● **用字用語委員会**
委員長　松尾 朗
副委員長　立川敬子
委員　塩田 真、佐藤 聡、小倉 晋、近津大地

● **渉外委員会**
委員長　髙橋 哲
副委員長　宮本郁也
委員　河奈裕正、北村 豊

● **社会保険委員会**
委員長　河奈裕正
副委員長　外木守雄
委員　近津大地、川本義明、廣田 誠、宗像源博、堀江伸行

● **学術委員会**
委員長　城戸寛史
副委員長　加藤仁夫
委員　佐藤淳一、植野高章、岡本俊宏、関根秀志

● **倫理委員会**
委員長　河奈裕正
副委員長　柳井智恵
委員　佐藤淳一、石崎 憲、冨原 圭、横山敏秀（弁護士）

● **医療委員会**
委員長　藤井俊治
副委員長　古谷義隆
委員　立川敬子、金子貴広、鵜澤一弘、古賀陽子

● **薬剤関連調査委員会**
委員長　松尾 朗
副委員長　矢郷 香
委員　河奈裕正、管野貴浩、小山重人、茀生田整治、古谷義隆

● **脱タバコ社会実現委員会**
委員長　長尾 徹
副委員長　濱田 傑
委員　瀬戸晥一、河奈裕正
菅井敏郎（名誉会員）　福田仁一（名誉会員）

● **研修カリキュラム委員会**
委員長　藤井俊治
副委員長　矢島安朝
委員　髙橋 哲、喜久田利弘、茀生田整治、河奈裕正、山下佳雄

● **賛助会員制度促進委員会**
委員長　髙橋 哲
副委員長　小倉 晋
委員　立川敬子

● **診療ガイドライン作成委員会**
委員長　管野貴浩
副委員長　柳井智恵
委員　福田雅幸、堀江伸行、立川敬子、小山重人

● **広告のできる専門医推進委員会**
委員長　瀬戸晥一
副委員長　藤井俊治
委員　矢島安朝、矢郷 香、管野貴浩、福田雅幸、日比英晴、加藤仁夫　福田仁一（名誉会員）

● **診療マニュアル作成委員会**
委員長　矢郷 香
副委員長　木津康博
委員　藤井俊治、河奈裕正、丸川恵理子

● **感染症対策委員会**
委員長　瀬戸晥一
副委員長　髙橋 哲
委員　関谷秀樹、廣安一彦、丸川恵理子

● **会員データベース管理委員会**
委員長　藤井俊治
副委員長　宮本郁也
委員　関谷秀樹、福澤 智、金子貴広

● **共同研究委員会（日本顎顔面補綴学会）**
委員長　管野貴浩
副委員長　小山重人
委員　髙橋 哲、山下佳雄、柳井智恵、堀江伸行

《各種委員会報告》

専門医制度委員会報告

専門医制度委員会委員長　加藤仁夫

専門制度委員会は加藤仁夫委員長、藤井俊治副委員長、小倉 晋委員、河奈裕正委員、矢島安朝委員、立川敬子委員、廣田 誠委員、茀生田誠治委員と髙森 等委員（名誉会員）の9名で構成されています。

2024年4月1日現在の認定研修施設数は105施設、認定准研修施設数は25施設、専門医数は141名、指導医数は193名です。

【認定専門医試験、認定指導医試験】

昨年度の新規専門医受験者は7名で、合格者は6名でした。今年度の認定専門医ならびに指導医の受験申し込み締め切りは2024年8月末日ですので、受験予定者は準備を始めてください。なお日程ならびに申請書等につきましてはホームページの「専門医制度」ならびに「お知らせ」の欄を掲載しますのでご覧ください。

【認定専門医、認定指導医、認定研修施設等の更新申請】

2025年4月1日認定の認定指導医、認定専門医、認定研修施設の更新申請につきましては専門医と指導医の更新時期の統一化など更新申請時期の見直しにおいて若干の変更がありました。新制度の移行期にあたるここ数年間は特に指導医をお持ちの先生におかれましては複雑な更新申請になりますので、ホームページを熟読の上対応をお願い申しあげます。

更新再審査ならびに更新保留者の多くは教育研修会、学会参加回数不足です。近々5年間に2回以上の参加が義務づけられていますが、開催が年に1回のこともあり、気がついた時にはすでに終わっているとのことでした。今年度の教育研修会は2024年8月25日（日）にWEB開催しますので、更新時期でない皆様ぜひ参加してください。学術大会は2024年11月30日（土）、12月1日（日）です。

【日本顎顔面インプラント学会専門医認定特別試験】

本学会創設当時に指導医（暫定指導医）になられた方の中には年齢制限などのために専門医を未取得の方が多数おります。そのため昨年度から3年間にわたり専門医認定特別試験を実施することに決定し、昨年度は多くの方に受験していただきました。今年度の書類申請期間は2024年9月1日～10月末日（消印有効）です。

なお、今年指導医更新の方も専門医特別試験を受験できますが、指導医の更新を済ませる必要があります。日程の都合上学術大会参加回数と研修会参加回数にご注意ください。

現在、日本歯科専門医機構認定のいわゆる広告のできるインプラント歯科専門医（仮称）制度について日本歯科専門医機構、日本口腔インプラント学会および本学会との協議が最終段階に来ており、今年度中の成立を目指しています。それに伴い本学会の規則等の改訂がありますのでご注視ください。

専門医資格認定審査会報告

専門医資格認定審査会委員長　福田雅幸

【2024年4月1日認定の専門医試験結果について】

専門医資格認定審査会では、今回は7名の専門医新規申請者に対して書類審査を行い、書類審査合格者に対して筆記および面接試験を行いました。書類審査で多く問題となるのは医療機器の適応外使用であり、歯科インプラント治療のために薬事承認された医療機器の使用は問題ないのですが、適応外の医療機器の使用に関しては医療機関の倫理委員会で承認されたものでなければなりません。また今回の試験から、筆記および面接試験では、本学会編の「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」と「顎骨再建とインプラントによる治療指針」からインプラント専門医が熟知していなければならない事項について問うことにしました。

本学会認定専門医取得のためには、インプラント治療に関する経験が30症例以上必要で、その他骨造成手術や全身管理に関する報告、論文や学会での発表などの業績が必要です。残念ながら、毎年多くの申請書類に不備があります。判らない点はご質問をお受けしますが、最新の申請要綱、専門医制度規則、専門医制度施行細則を熟読の上、余裕をもって申請書類をお送りください。

研修施設資格認定審査会報告

研修施設資格認定審査会委員長　日比英晴

新体制となり6名の委員で運営しています。2023年度の申請は研修施設1件がありました。資格認定審査が済めば、その結果を専門医制度委員会に答申いたします。なお准研修施設の申請資格は、本学会指導医または専門医が1名以上常勤し十分な指導体制がとられていることを要する（専門医制度規則）、准研修施設の施設長は他の准研修施設長と重複はできない（内規）とされていますのでご注意ください。

総務広報委員会報告

総務広報委員会委員長　又賀 泉

総務広報委員会は、委員長は私又賀 泉、副委員長矢郷 香先生、委員として茀生田整治先生、木津康博先生、丸川恵理子先生、宮本郁也先生、石垣佳希先生、小林正治先生の6名で総務広報委員会が構成されています。本委員会の業務は、日本顎顔面インプラント学会の運営の円滑化のために、理事長、常任理事会、理事会、常置委員会、運営審議委員会および事務局との相互情報の情報を図る総務の役割と、ホームページの充実とニューズレターの発行を行い、広報活動を通じて会員に適時情報を伝達することです。

今回の総務としての大きな報告事項として、2019年より始まった新型コロナウイルスであるCOVID-19のパンデミックによる学会運営の支障があげられます。学会の運営として極めて厳しい時期を迎え学会活動も支障をきたしていましたが、一方理事会や常置委員会の情報交換が電子情報の交換で、理事会や委員会もすべてWEB形式で開催され経費削減に貢献する利点もありました。face to faceで行われる委員会とWEB形式と比較すると、どうしても開催日時の選定や調整に制限があり、時間の関係で意見が一方通行になりがちでしたが、最初戸惑ったWEB会議も回数を重ねますと、夕食後や休日の開催時間に制限がなく開催ができるという利点がわかりました。従来の交通費や宿泊費などの委員会参加経費が節約されたことでしょうか。一方では開催日時の調節やzoom会議の設定、毎回会議前資料の配布などの準備に大変な苦労をされた事務局に深く感謝申しあげます。コロナ後の会議の運営方法については打ち合わせが必要になりますが、face to faceの会議が増えることは間違いなさそうです。

ニューズレターは毎年6月発行目標に作成を行っています。今回は10号を数えますが、前号9号は学術誌に挟み込む紙媒体でなく、ニューズレターを電子化してホームページに掲載する「メールニューズレター」を発行しました。電子化しますとreal timeに情報公開でき、印刷と発送の経費が不要になります。これからは学会雑誌も国際誌同様に電子ジャーナルの比重が大きくなることが予想され現実に動いています。ただニューズレターが印刷されて冊子になると気軽に読める利点があるというご意見もあります。10号も電子版「メールニューズレター」を予定していますがぜひご意見をください。ニューズレターの作成は、私と副委員長の矢郷、香先生を中心に原稿依頼や情報の収集を行なってきましたが、前号9号は、茀生田整治先生が原稿収集と編集を行ってくれましたが、今回10号は木津康博先生が本年6月中旬発行を目標に原稿の依頼と収集を担当してくれています。ニューズレターの目的の一つに通常学会誌では掲載できない常置委員会活動や学術大会および教育研修会関連の記事を掲載してまいりましたが、今後自由で新しい掲載の範囲を広げ、さらに会員の意見も投稿していただき、ニューズレターを通じて学会の充実をさせたいと考えていますので、よろしくご協力お願いいたします。

今後本学会の電子化がますます進み、総務として協力することも多いと思います。すべての書類の電子化保存、誰でも生の原稿をPDFで読める発行論文のJ-stage化、事務が抱える書類を電子化することで保管場所の削減など、事務局が抱える問題に協力することも大きいです。

教育研修委員会報告

教育研修委員会委員長　矢島安朝

2023年度の第50回日本顎顔面インプラント学会教育研修会は、島根大学医学部歯科口腔外科学講座、管野貴浩教授のもと、8月27日にWEB開催されました。メインテーマは「顎骨再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の現状を学ぶ」とされ、2022年に上梓された本学会の「顎骨再建とインプラントによる治療指針-広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル-」に準拠した内容で行われました。ライブ配信とともに、研修会翌日から約2週間のオンデマンド配信が行われたため、今回の参加者も最高記録を更新し、209名に達し盛会裏のうちに終了となりました。当日、運営等に携わっていただきました島根大学医学部歯科口腔外科学講座の先生方に心より感謝申しあげます。

教育研修委員会では、担当いただく大学の特色が強く出るようにと、メインテーマおよび演者の選考については、担当大学の実行委員長のご意見で動いています。さらに、少しでも多くの会員に参加いただくために、オンデマンド配信も行っています。わが講座でもぜひ主催したいと希望される先生方がいらっしゃいましたら、事務局までお申し出ください。

ご存じの通り、現在、日本口腔インプラント学会とともに「日本歯科専門医機構認定広告可能な専門医」の制度等をワーキンググループで検討しております。今年度中には何とか動き出すことができるものと思います。その時、講義のほとんどはWEB配信となる予定です。日常臨床におけるOJT（On the Job Training）で技能および態度教育がなされ、WEB上で全国共通の基本的知識教育が施されるわけです。今後、日本歯科専門医機構の指導等を経て、両学会が合同委員会を設け、ここにおいて具体的な講義内容や演者が決定されて行くものと思われます。この大きな過渡期には、多くの会員の先生方にご活躍いただかなければ本学会は成り立ちません。何卒、今まで以上にご協力の程、宜しくお願い申しあげます。

雑誌編集委員会報告

雑誌編集委員会委員長　野口 誠

日本顎顔面インプラント学会誌は、歯科インプラントのみならず、顎顔面の形態と機能回復のための生体埋め込み型材料と手術に関する、基礎から臨床研究にいたる幅広いテーマを扱っています。基礎研究は、歯科理工ならびに生体材料から再生医療に関するものなどの投稿をお待ちしています。臨床研究では、エビデンスレベルの高い前向き研究はもとより、予備的研究あるいは後ろ向き観察研究などの患者対象研究を求めます。症例報告も積極的に採用する方針ですが、報告しようとする症例の臨床的意義を、緒言のなかで明らかに述べるようにしてください。そのうえで、写真ならびに画像診断など、それを裏付ける図を提出していただくことが必須になります。ご留意の程、お願いいたします。

雑誌編集委員会はWEBで2月、6月、9月の年3回開催しています。従いまして、査読の時間を考慮して、編集委員会の約1か月前までにご投稿いただけると掲載までの期間を短縮することができます。なお、投稿の際には投稿規定にそったものになっているかをいまいちどご確認ください。不備があると査読前審査により、修正後再投稿となり、時間を要することとなります。

現在、雑誌編集委員会は、委員長野口に2名の副委員長山下佳雄先生（佐賀大学）、古谷義隆先生（東京歯科大学）と委員8名の体制で行っています。このなかには本年度新任の代田達夫先生（昭和大学）と加倉加恵先生（福岡歯科大学）のおふたりが含まれます。これまでにはない目で査読していただけるものと期待しています。会員の先生方の顎顔面インプラントをテーマにした研究成果の公表の場として、本誌をより充実させるために努力していきたいと思っています。会員の先生方も何卒、ご協力の程お願い申しあげます。

第15回優秀論文賞（対象21巻2号～22巻1号まで）は、下記のようになりました。

原著の部：該当なし

症例報告の部：21巻4号掲載

タイトル：**「下顎骨再建後のインプラント補綴装置に陶材焼き付けカスタムアバットメントを用いた2症例」**

論文著者：川上紗和子/東京医科歯科大学口腔再生再建学分野、東京医科歯科大学病院口腔インプラント科

定款（会則）検討委員会報告

定款（会則）検討委員会委員長　野口 誠

本会は公益社団法人として、内閣府により認められた公益性認定の基準に適合した定款を定めております。定款の変更は、学会名称、事業目的あるいは事務所の変更など、学会の骨組みに関わる事柄の変更で、本委員会で慎重審議したうえで理事会に諮り、社員総会の議決を経ることになります。

会則のなかで、投稿規定、倫理規定、専門医制度規則などは、それぞれの委員会での審議を経て、理事会決定されます。本委員会で扱う会則はそれら以外のものとなります。

前年度は、定款ならびに会則の変更はありませんでした。今後、公益社団法人として、本学会が求められる姿に即応する形で、必要に応じて定款（会則）の変更などに柔軟に対応していきたいと考えております。

用字用語委員会報告

用字用語委員会委員長　松尾 朗

用字用語委員会は、委員長松尾 朗以下、副委員長立川敬子、委員塩田 真、佐藤 聡、小倉 晋、近津大地で構成されています。

昨年度は、関係各所からインプラントに関連する様々な用語の問い合わせをいただき、本学会での用語の統一も念頭に委員会内で審議を行ってきました。

丁度そのタイミングで、日本口腔外科学会編集の口腔顎顔面外科学専門用語集の改定が正式に日本口腔外科学会で決定されました。そこで、昨年末に嶋田理事長から日本口腔外科学会に申し出をいただき、本学会が、インプラントにかかわる部分に関し参画させていただけるように了承されました。まだ具体的な動きはありませんが、今後、この方向で委員会としても動いていく予定ですので、関連する先生方もご協力の程よろしくお願いいたします。

財務委員会報告

財務委員会委員長　長尾 徹

いつも本学会の事業運営にご協力いただき誠にありがとうございます。2023年度の財務委員会は、副委員長の近津大地先生（東京医科大学）、委員の佐藤淳一先生（東京デンタルオフィス）、矢郷 香先生（国際医療福祉大学）、黒岩裕一朗先生（モモノハデンタルクリニック）、そして委員長の長尾 徹（愛知学院大学）で構成されております。

2023年の財務状況は、決算では収支差額は決算予想を若干下回りました。その理由は毎年指摘されていますが会費納入がよくないことです。一方、プラスの要因としては近年の教育研修会の参加者増が挙げられます。また、2022年8月に発刊した「顎骨再建とインプラントによる治療指針」書籍の売りあげが伸び悩んでおり新たな仕入れを来期にしたこと、「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」の発刊の遅れにより決算前の仕入れが発生しなかったことがプラスに働きました。公益法人の収支相償としては販売された分だけが収支に計上され、残りは貯蔵品として取り扱われます。

2024年度の予算案に関しましては、事業支出は前年度対比でほぼ同額を見込んでいます。事業費収入に関しましてもほぼ同額で、今期の会員数は例年通り微増を見込んでおります。その他の増収としましては、指導医・専門医認定料や会員特別価格でのガイドライン（治療指針）、マニュアル頒布収入の増加を見込んでおります。学会員の皆様の活発な学会活動を期待しております。また、例年事務局からのお知らせにも記載しておりますように遅滞なく年会費を納入していただきますようお願いいたします。

公益社団法人として健全な運営の下で今後も新しい公益事業にも取り組んでまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

会員データベース管理委員会報告

会員データベース管理委員会委員長　藤井俊治

会員管理データベース委員会では、学会でご活躍いただいている先生方が運営審議に加わっていただけるように、本学会が開催する学術大会や教育研修会等会員の活動状況に関してデータ化しております。活動履歴は専門医、指導医の申請・更新等にも必要になってくることから順次段階を踏んで、より精密にデータベース化に取り組んでいきたいと考えておりますが、予算の乏しい状況であることからできるところから充実させていきたいと考えております。

医療委員会報告

医療委員会委員長　藤井俊治

公益社団法人として本学会が取り組んでいる広告可能な専門医取得を目指して、研修カリキュラムの立案や研修マニュアルが作成されています。医療委員会では医療技術とは異なる部分で患者さんの安心安全を向上させるため、国際インプラント手帳を作成しております。今回は広告可能なインプラント歯科専門医制度に対応すべく12年ぶりに改訂を行いました。今までよりも記入しやすく、また患者さんに少しでもわかりやすくなるように改訂したつもりです。カリキュラムには手帳の作成が盛り込まれていることから医療委員会としては専門医申請時の必須事項として、今後は手帳作成を義務づけていく予定です。国際インプラント手帳は学会HPから誰でもダウンロードできるようになっています。会員の皆様におかれましてはインプラント治療終了時に必ず患者さんにお渡しできるようにお願いいたします。

研修カリキュラム委員会報告

研修カリキュラム委員会委員長　藤井俊治

作成された研修カリキュラムは日本歯科専門医機構、公益社団法人日本口腔インプラント学会担当者の了承を受けてほぼ完成しました。この研修カリキュラムの一般目標（GIO）、到達目標（SBOs）をもとに診療マニュアル作成委員会から「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」が作成され昨年12月より発刊されています。研修施設、准研修施設の準備が必要ですが、機構が認めるインプラント歯科専門医の進捗状況に対応してこのカリキュラムに沿った研修を開始する予定です。

渉外委員会報告

渉外委員会委員長　髙橋 哲

渉外委員会の活動は他学会特に海外の関連学会との連携がその主たる活動です。現在下記のように毎年日本、韓国、中国、台湾、インドで開催されているAPIS、さらに本学会総会の際に行われているAPIS Winter Meeting、本学会と姉妹関係にあるSASOMI（南インド顎顔面インプラント）と緊密な連携をとり、日本が中心となって世界との顎顔面インプラントのフォーラムを構成すべく精力的な活動を行っております。また今年は5月に開催された台湾のインプラント学会TAID (Taiwan Academy of Implant Dentistry)に本学会から嶋田 淳理事長、河奈裕正先生、柳井智恵先生が招待され講演をしてきました。APISとは別にTAIDと本学会の連携も今後深まっていくものと期待されます。現在委員は委員長の髙橋 哲、副委員長の宮本郁也（二人はAPISの役員も兼ねております）、河奈裕正先生、北村 豊先生の4名です。今回は本年3月に中国で開催された第21回APISについて、日本から唯一参加した宮本郁也が別ページにて詳細にご報告申しあげます。

21st Asia Pacific Implant Society (APIS)
渉外委員会副委員長
APIS correspondent 宮本郁也

今年で第21回を迎えましたAPIS（Asia Pacific Implant Society）は、中国の浙江省杭州にて2024年3月29日から31日まで開催されました。2019年の筑波以来、4年数か月ぶりの対面での開催です。大会長は、APISで中国を取りまとめておられる浙江大学のWang Huiming先生です。メインテーマは、”Innovation & Development & All-win”でした。今回、韓国からは前回の大会長であるサムスン・メディカルセンターのJun-Young PAENG先生含め4人、台湾からは15人程度、日本からは宮本が参加しました。残念ながらビザの関係などでインドからの参加者はいませんでした。中国の各地から参加者がおられ、演題のレベルも大変高く感じました。今回の学会では、特にデジタルを活用したインプラント治療に関する演題が多く、演題発表するとスライドの下にはAIでの同時通訳が流れるなど、随所にテクノロジーの進歩を感じさせる大会でした。特別講演では、アメリカ、ADA Forsyth InstituteからKang Ting先生がご講演されました。研究試料をスペースエックスの宇宙船に乗せ、それを解析するような骨代謝の研究を発表され、実験のスケールの大きさを感じました。また、定例の会議においては、現地での参加がかなわなかった髙橋 哲先生に、急遽zoom会議で参加していただきました。旧交を温めつつ、APISの将来に向けての具体的な指針が決定されました。その中の一つに、タイをコアメンバーに入れるという方向で了承を得ました。

次回第22回APISは、インドで初めての開催となります。2025年1月16～17日にバンガロールにて開催予定です。次々回第23回APISは日本が担当で、2025年11月29～30日に、島根大学の管野貴浩先生が大会長で日本顎顔面インプラント学会に併催の形でAPISを開催予定です。今回、Wang教授のお取り計らいで、数年前に新築された浙江省口腔医院、浙江大学医学院口腔医学院（日本風には、浙江大学歯学部と言うべきでしょうか）を見学させていただきました。大変立派な建物で、チェアは600台、入院病床は135床と、ものすごい規模でした。杭州市の人口は1200万人近くで、その規模にあった大きな病院でした。

APISに参加している先生方は、顔見知りの先生が多く大変親切です。日本は、APIS中では確固たる発言力を持ちながらも、参加者数が少ないという傾向があります。大会は、日本顎顔面インプラント学会の協力のもとwinter meetingを合わせますと、ほぼ毎年日本で参加できます。国際学会の醍醐味を手軽に味わうことのできる学術集会です。若い会員の皆様にも積極的に参加していただき、国際学会での経験値をあげていただければと思います。繰り返しますが、第22回APISは、初めてインドでの開催が予定されています。皆様の積極的な参加を期待します。

総会時の集合写真

理事会の様子とzoom会議にて参加の髙橋 哲先生。

Taiwan Academy of Implant Dentistryの翁肇嘉理事長（左）、宮本（中）、Wang浙江大学教授、大会長（右）。

浙江大学医学院附属口腔医院とAPISメンバー集合写真

学術委員会報告

学術委員委員長　城戸寛史

長らくお勤めいただいた加藤仁夫先生の後任として、昨年度より学術委員長を務めております。不慣れな業務のため，周囲にご迷惑をおかしながらも，なんとか1年間を乗り切ることができました。これまでの加藤先生のご苦労に改めて感謝申しあげます。及ばずながら、学術委員会の業務が滞らないように、引き続き精一杯務めさせていただきます。

現在、学術委員会として継続して行われている業務内容は以下のとおりです。

1.学術大会時の大会長賞などの審査（担当：学術委員長、副委員長中心に実施）

以下の手順で大会長賞の審査を行っています.

①口頭発表全演題に対する審査員の配置：審査員は、座長、学術委員あるいは編集委員、学術委員あるいは編集委員が推薦するインプラントに精通している会員から選出します。

②評価票の準備：学術大会の前にアンケート調査を行い、審査員を決定します。

③審査業務：審査員は本部で評価票を受け取り、各会場で発表に審査を行います。審査後に評価表を提出し、一覧表を作成します。

④各賞の決定：学術大会の2日目の午前中に審査を終え、総会の前に大会長、理事長、学術委員長により大会長賞を決定します。

⑤総会時に発表：受賞者は発表内容を学会誌に投稿することが必要であることを説明します。

第27回学術大会では、富山大学の尾﨑恵悟先生らによる「初期固定が良好であったインプラントの早期脱落に関連するリスク因子の検討」が大会長賞を受賞されました。

2.インプラント手術関連の重篤な医療トラブルアンケート調査（3年毎に実施）

第1回目の調査は、矢島安朝委員が担当し、第2回および第3回目の調査は、河奈裕正委員が中心となって実施され、すでに本学会雑誌で発表されました。

2018年1月1日～2020年12月31日の第4回目の調査は、私の担当として集計し、現在投稿中です。

2021年1月1日～2023年12月31日の第5回目の調査は、大阪医科薬科大学の植野高章先生にお願いいたしました。

3.インプラント手術関連の重篤な医療トラブルアンケート調査まとめ

河奈裕正委員を中心として、9年分の調査内容を論文にまとめて英文誌に投稿予定です。

4.赤坂若手奨励基金

2020年に故赤坂庸子先生からの寄付を基金として、若手研究者の育成のための研究補助金制度が設立されました。毎年、40歳以下の会員に向けて研究補助金の申請を公募し、学術委員を中心として審査を行い、採択者を決定しています。

昨年度までの審査方法が煩雑であるとのご意見があり、学術委員会で審査方法についてアンケートをとり、その結果を反映して、2023年度は審査方法を若干改変しました。

2023年度は8名の出願があり、厳正なる審査の結果、徳島大学の福田直志先生の研究が採択されました。

5.ヒューフレディ賞（ポスター発表に対する学会賞）

諸般の事情で第27回大会では実施いたしませんでした。今後の対応については、検討中です。

6.その他学術委員会に提案されている業務ならびにテーマ

①ザイゴマインプラントに関するアンケート調査～実施している理由と実施しなくなった理由など～

②下顎歯肉癌の治療と歯科インプラントによる咀嚼機能回復のアンケート調査

以上のように学術委員の業務は多岐にわたり、学会にとって重要なものが多く含まれます。多くの会員の先生方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

倫理委員会報告

倫理委員会委員長　河奈裕正

倫理委員会は、従来の柳井智恵副委員長、石崎 憲委員、佐藤淳一委員、冨原 圭委員の他、新たに弁護士の横山敏秀委員をお迎えし、私とで務めてまいります。また、前委員長の福田仁一先生には引き続きのご助言をお願いしています。長年、本委員会委員としてご指導いただいた弁護士の永松榮司先生はご退任となりましたが、心から感謝の意を表したいと存じます。

昨年度の活動は、倫理審査申請書を、昨今の電子媒体による個人情報管理を反映させた内容に修正しています。また、倫理委員会を持たない医療施設および研究機関で本学会に所属する会員が行う、人を対象とした医学・歯科医学研究に対し、憲法・諸法令及びヘルシンキ宣言等に示された倫理規範を踏まえ、最新の文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に沿った倫理審査ができるよう研究倫理規則を改定しました。今後も、学会の定める研究及び臨床における倫理綱領に則った活動をしてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

薬剤関連調査委員会報告

薬剤関連調査委員会委員長　松尾 朗

薬剤関連調査委員会は、新たに委員長松尾 朗、副委員長矢郷 香、委員河奈裕正、管野貴浩、小山重人、茀生田誠治、古谷義隆で構成されています。

本委員会では、他学会に先駆け行ったビスフォスフォネート投与患者における歯科インプラント治療に関するアンケート報告（日本顎顔面インプラント誌13巻29-39,2014）の再調査を、AAOMS（2022）本邦（2023）のMRONJに対するポジションペーパーの改定、また、前回調査から約10年を経過したことを機に企画し、理事会の承認を得て委員会内で原案を作成しました。

しかし、昨今の倫理審査の厳格化の流れもあり、まずは、全ての研修施設に対して治療方針及び症例の有無のみを問う第一弾のアンケートを行った後、症例を経験した施設に絞って第二弾のアンケートを行う2段階方式の調査を考えております。現在、第1弾のアンケートの最終案がほぼ固まっており、倫理審査の準備を行っている最中です。本学会がインプラント専門医に相応しい学会であるとさらに周知されるよう努力していきたいと考えており、アンケートの際にはご協力の程よろしくお願いいたします。

脱タバコ社会実現委員会報告

脱タバコ社会実現委員会委員長　長尾 徹

本委員会は副委員長の濱田傑先生（近畿大学病院）、そして委員の瀬戸晥一先生（南東北病院）、河奈裕正先生（神奈川歯科大学）に加え、名誉会員の福田仁一先生（大分歯科専門学校）、菅井敏郎先生（銀座UCデンタルインプラント）で構成されております。本委員会は歯科系合同脱タバコ社会実現委員会（旧9学会合同脱タバコ社会実現委員会）の中心的存在として活動しています。2023年度の活動をご報告します。

1.たばこ産業、関連企業から経済支援を受けている学会発表・論文投稿に対する各学会の対応について

2022年度の第1回理事会（2022年11月25日）において、たばこ産業、関連企業から経済支援を受けている学会発表、論文の取り扱いに関して、歯科系合同脱タバコ社会実現委員会では、加熱式タバコを販売しているフィリップモリス社が日本のオーラルヘルス分野をプロモーションのターゲットにしていることへの警鐘とともに、タバコ企業・関連組織からの助成を受けた論文や発表演題の取り扱いについて各学会で検討することとなり、本学会でも協議事項として取りあげられました。協議の結果、本学会としてはタバコ企業・関連組織から経済支援を受けている学会発表、論文は受理しないことに異論はなく、倫理委員会、学術委員会、雑誌編集委員会の関連委員会で規定改訂の作業が進められました。その結果、雑誌編集委員会から提案されたタバコ関連企業関係の論文投稿に対する指針（案）が承認され運用開始となりました（2024年vol.23,No.1学会誌の投稿規定に掲載）。これにより本学会は、たばこ産業、関連企業から経済支援を受けている学会発表、論文は受理しないこととなりました。歯学系（10学会）合同脱タバコ社会実現委員会でもすべての参加学会で同様の検討作業が進められ、順次運用開始となっています。

2.歯科系合同脱タバコ社会実現委員会の「新型タバコ、特に加熱式タバコに関する注意喚起」のアップデートについて

2022年1月7日、本学会のホームページに「新型タバコ、特に加熱式タバコに関する注意喚起」を掲載しました。その後新たな科学的知見が加わってきたため、歯科系合同委員会は改訂作業を進め、アップデート版を各学会ホームページに掲載、日本歯科医師会関連団体等関連機関への配布を予定しています（**https://www.jamfi.net/tfdrc/statement.html**）。

3.その他

1）本学会が中心となって現在歯科系合同脱タバコ社会実現委員会のホームページをリニューアルしています。各種学会、イベントの新着情報についても情報提供し、喫煙対策、禁煙支援の基礎知識等の情報も載せていきます。本学会のホームページにバナーが設置されております（**https://www.jamfi.net/tfdrc/index.html**）。内容は順次アップデートしてまいります。

2）WHO IARC国際がん研究機関から、「口腔がん予防ハンドブックVol.19」が発刊され、口腔がんの最大のリスク因子であるタバコ使用の中止によるがんの予防効果、禁煙介入効果（薬物療法、行動変容療法）に関するシステマティックレビューと口腔がん検診の有効性に関する科学的証拠が公表されました。

3）禁煙推進学術ネットワーク関連

（1）第6回禁煙推進学術ネットワーク学術会議（日時：2024年11月16日（土）、会場：国立がん研究センター築地キャンパス）が日本疫学会、日本臨床腫瘍学会、日本歯周病学会が担当となって開催される予定です（**https://tobacco-control-research-net.jp/activity/nenji/index.html#02f07523**）。

（2）禁煙推進学術ネットワークのホームページ（**https://tobacco-control-research-net.jp/**）と「禁煙の日スワンスワン22」のオフィシャルブックレット（**https://www.kinennohi.jp/**）がアップデートされました。本委員会でも禁煙活動に活用していく予定です。

診療ガイドライン作成委員会報告

診療ガイドライン作成委員会委員長　管野貴浩

2018年より常置委員会の1つとして設置された本委員会委員長を仰せつかり、今年度は、柳井智恵副委員長、福田雅幸先生、堀江伸行先生、立川敬子先生、小山重人先生の6名で任に当たらせていただいております。

2022年8月に、本学会として広範囲顎骨支持型装置治療を中心とした診療指針である、“顎骨再建とインプラントによる治療指針-広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル-”をインプラントジャーナルと歯科専門書籍を展開するゼニス出版から上梓いたしました。そして昨年2023年8月27日には、第50回の本学会教育研修会のテーマとして「顎骨再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の現状を学ぶ」が選定され、この治療マニュアルに準拠した内容によりWEBでのライブ配信と研修会翌日から2週間のオンデマンドでも運用されました。本テーマの重要性が窺われ、参加者数は過去最高に達し、盛会裏の内に終了となりました。

今後も引き続き、本治療指針-広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル-が、広範囲顎骨欠損をきたす多くの患者さん方の治療において、われわれ歯科各専門医（口腔外科、歯周病、歯科麻酔、小児歯科、歯科放射線、補綴歯科、矯正歯科、インプラント歯科等）、医科各専門医（形成外科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、リハビリテーション科等）、言語療法士等による多職種医療連携による臨床の場で活用されることを強く祈念する次第です。

今後さらなる広範囲顎骨支持型装置治療に関するエビデンス構築と診療報酬改定、また発刊後の皆様方からの種々のご意見等を集積して適時改訂を行い、将来的には診療ガイドライン作成を目標としております。しかし、今後この広範囲顎骨支持型装置および補綴治療に関するガイドライン作成に向けては、依然として学術知見が治療根拠となるエビデンスとして提示するには十分とは言えない現状でもあります。また、（一社）日本歯科専門医機構の定めるインプラント歯科専門医に向けても、無論広範囲顎骨支持型装置および補綴治療に関する習得は大変重要な内容でもあります。

賛助会員制度促進委員会報告

賛助会員制度促進委員会委員長　髙橋 哲

賛助会員制度促進委員会の委員長を任されている髙橋です。本学会では本学会の活動の基盤の一つとして賛助会員制度を設け、顎顔面インプラント事業をご展開される各企業を中心にご入会いただいております。委員の構成は私と小倉 晋先生、立川敬子先生の3名です。本制度はデンタルインプラントのみならず関連した製品の開発、医療現場への供給等に直接携わる各企業との産学連携を深め、歯科医学の発展を通して国民医療の充実や医薬品産業の発展を目指すという大変重要な役割を担っている公益社団の学術団体である本学会の運営において必要不可欠な要素であると思っております。現在賛助会員に参加の企業は11社ですが、国民医療を目指したデンタルインプラントの普及のため、地道に賛助会員を増やそうと思っております。会員の皆様にも参加してくださる企業を紹介していただきますよう、よろしくお願い申しあげます。具体的に企業をお教えいただければ私が直接交渉させていただきます。下記のメールアドレスまでお願いします。tetsu@dent.tohoku.ac.jp

診療マニュアル作成委員会報告

診療マニュアル作成委員会委員長　矢郷 香

診療マニュアル作成委員会は、矢郷が委員長を仰せつかり、副委員長は木津康博先生、編集委員は河奈裕正先生、藤井俊治先生、丸川恵理子先生で任に当たっています。

現在、口腔外科、歯科麻酔、小児歯科、歯周病、歯科放射線、補綴の分野で日本歯科専門医機構より広告可能な6つの専門医が認定されています。本学会も「インプラント歯科専門医（仮称）」の認定に向けて、同機構と日本口腔インプラント学会とのワーキング会議も大詰めを迎えています。

本委員会では、専門医取得のための研修に役立つようなマニュアル本を作成するために活動を続けてきましたが、公益社団法人日本顎顔面インプラント学会診療マニュアル作成委員会編集による「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」本がクインテッセンス出版から2023年12月に発刊され、同月2日（土）、3日（日）に開催された第27回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会時に販売することができました。本書は、本学会が作成した研修カリキュラムが記載された研修手帳を基に、手術だけではなく補綴やインプラント歯周炎などインプラント治療に関するあらゆる知識が得られるよう図・表・症例写真を沢山掲載し、わかりやすく解説しています。ご執筆いただいた先生方には、この場をお借りいたしまして御礼申しあげます。お蔭様でとても好評です。研修カリキュラムは、到達目標として、一般目標（general instructional objective：GIO）と行動目標（specific behavioral objectives：SBOs）が設定されています。到達目標が確認しやすいよう、各章のはじめにGIOとSBOsのチェックリストを掲載し、さらにSBOsの細目では、修得すべきGIOを態知技のマークで記載しています。

インプラント歯科専門医（仮称）取得のためには、新たな専門医試験に合格する必要があります。新たな専門医取得のためまた各研修施設・准研修施設のインプラント治療の研修において参考となり、必携するべき本になったかと思いますので、是非ともご購入しご一読ください。今なら会員特別価格にて頒布しておりますので、詳細は学会ホームページをご覧ください。

広告のできる専門医推進委員会報告

広告のできる専門医推進委員会委員長　瀬戸晥一

日本歯科専門認定機構、日本口腔インプラント学会、日本顎顔面インプラント学会の3団体で、昨年5月から本年4月までに計5回のWG会議が開催されました。WGで話し合われた内容については毎年12月に開催される本学会総会学術大会で逐次報告しています。現在は機構が認める広告可能な専門医取得に必要なインプラント治療の内容、経験数、研修施設、准研修施設の要件、その規則、施行細則について検討しています。本学会の研修施設の中にはインプラント治療を行うに当たっての医療設備は十分であっても、インプラントの埋入、補綴、メインテナンス、問題事例の対応の全てを一貫して行っていない施設もあります。また症例数も専門医を育成するのに十分でない施設も散見されます。そういった施設には、研修を諦めるのではなく、准研修施設として研修施設や近隣の准研修施設同士で連携して症例経験を養って専門医を取得してもらえるよう制度規則を作成しております。広告可能なインプラント歯科専門医制度は全く新しい専門医制度ですから、今までの日本顎顔面インプラント学会専門医と全く同じ制度がそのままスライドされるわけではありません。ある程度は犠牲を払わなければなりませんが、公益社団法人が国民に向かって行う制度です。ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

ご質問のある方は、ご遠慮なく委員会へお問い合わせください。

共同研究委員会報告

共同研究委員会委員長　管野貴浩

昨年2023年より常置委員会の一つとして新設された本委員会の委員長を仰せつかり、小山重人副委員長、髙橋 哲先生、山下佳雄先生、柳井智恵先生、堀江伸行先生の6名で任に当たらせていただいております。

周知の様に、2012年の歯科診療報酬改訂で、広範囲に及ぶ顎骨欠損患者に対する歯科インプラント治療が「広範囲顎骨支持型装置」および「広範囲顎骨支持型補綴」として保険導入されました。保険改定後の現在の2022年の保険適用条件としては「腫瘍、顎骨髄炎、外傷などにより、広範囲（連続した4歯相当以上）な顎骨欠損もしくは歯槽骨欠損症例、またはこれらが骨移植などにより再建された症例で」「外胚葉異形成症などまたは唇顎口蓋裂などの先天性疾患であり、顎堤形成不全であること」「外胚葉性異形成症などの先天性疾患であり、連続した3分の1顎程度以上の多数歯欠損であること」「6歯以上の先天性部分無歯症又は前歯及び小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全（埋伏歯開窓術を必要とするものに限る）であり、連続した3分の1顎程度以上の多数歯欠損（歯科矯正後の状態を含む）であること」となっています。しかし、対象となる顎骨欠損患者さんの特殊性もあり、現状では確固たる診療ガイドラインがないまま診断・治療が行われ、各診療施設によりその適用基準すらあいまいで、標準治療は確立していないのが現状です。また、広範囲顎骨支持型装置ではインプラント体のディスインテグレーション、インプラント周囲炎や周囲粘膜増殖などの併発症が、通常のインプラント症例よりも比較的高頻度で、重症化しやすいとの報告がなされています。これらの発生率やリスクファクター（再建の有無，部位，軟組織移植の有無等）の検出に関しても急務ではありますが、個々の施設では症例数の積みあげが難しいこと、さらには施設ごとに評価基準が異なることなどから、これらのリスクファクターは現在までに明らかになっていない状況です。

そこで、方向性を同じくする（一社）日本顎顔面補綴学会と連携して共同研究を実施することで、共通の診断・評価および治療プロトコールを用いた多機関共同研究を実施し、継続的にデータ収集および広範囲顎骨支持型装置の残存率、成功率に関する長期予後やその他の関連併発症の発生率を明らかとし、さらに広範囲顎骨支持型補綴装置の口腔機能への効果を評価することしております。本学会および（一社）日本顎顔面補綴学会とのこれらの包括的な多施設共同研究を実施することにより、今後広範囲顎骨支持型装置治療の標準治療化を確立し、エビデンスに基づいた診療ガイドラインを確立作成することを目的としております。

本学会研修施設および准研修施設を対象として実施する方針で昨年臨床研究参加施設を募り、20施設より研究参加への賛同と了承を得て研究を実施して参ります。両学会理事会合同での研究計画内容は以下の通りとなります。

研究1.現状に関するアンケート調査：2023年の両学会（顎顔面インプラント学会、顎顔面補綴学会）に於いて発表すみ。

研究2.各参加施設における広範囲顎骨支持型装置および広範囲顎支持型補綴装置に関する実態調査（後ろ向きコホート研究）。

研究3.広範囲顎骨支持型装置を用いた顎補綴治療と用いない顎補綴治療の効果の比較研究（疫学研究多機関・前向きコホート研究）。

研究2および3について、現在研究に関して鋭意準備をすすめております。

感染症対策委員会報告

感染症対策委員会委員長　瀬戸 晥一

2020年2月日本顎顔面インプラント学会の主要メンバーがインド、バンガロール市にて、連携を目指している南アジア顎顔面インプラント学会（SASOMI）設立総会に参加している最中に、新型コロナウィルス感染が日本で確認された旨の報道に接し、その場で本委員会の立ちあげを視野においてパンデミック対策を協議いたしました。

世界人類を巻き込んだ歴史的な大パンデミックであるとの認識のもとに、最も危険と云われている歯科診療施設における緊急感染対策の駆動体を一社国際歯科医療安全機構に移し、学会横断的な活動を早急に展開することを誓いました。本学会にも感染症対策委員会を特別委員会として起ちあげる運びとなりました。早速斯界の最先端を走る口腔外科、口腔内科、基礎口腔科学、口腔ケア並びにBiosafety専門科学者の献身的な協力を得て、短い間に最大の感染経路である口腔における感染対策セオリーを確立することができました。

具体的には口腔がSARS-COV-2ウィルスの最大の感染経路であり交差点であることが証明され、口腔ケアの理念を応用して洗口液による「うがい」を励行することがCOVID-19感染対策の要であることに到達しました。これらはいずれも日本の口腔科学者から世界に発信された叡智の結晶です。

約100年前にスペイン風邪が流行った時に当時の内務省から国民に感染予防対策として「うがい」「手洗い」などが提言されていましたが、今回の新型コロナウィルス感染対策から「うがい」は外されております。その理由は明確にされておりませんが、我々はこの4年間「洗口、うがい」を推奨して全国的に講演、研修会を重ねて参りました。新型コロナウィルスが猛威を振るった4年あまり日本の歯科医療施設から一例も感染クラスターが発生しなかったことは、このアクションと無関係ではないと思われます。昨年日本学術会議大規模感染症予防制圧分科会から招かれて講演、討論する栄を賜り、その記録が日本学術会議で丁寧に編集されて一般に無料公開されたことは前回ご報告いたしました。

やがてCOVID-19は2類から5類に移行し、その後の感染の実態もほとんど報道されなくなり、急速に感染症に対する関心は薄れて参りました。それでもなお全国の歯科医療施設では「口腔ケア」の理念が徹底されており、すでに「口腔ケア」という言葉は一般日常用語として通用しているように思われます。

これを機会に我々はパンデミックの再来襲に備えて、「洗口、うがい」を国民の生活習慣にまで拡大したいと願っています。本学会を挙げてのご協力を伏してお願いいたします。

社会保険委員会報告

社会保険委員会委員長　河奈裕正

社会保険委員会は、昨年度と同じく、外木守雄副委員長、川本義明委員、近津大地委員、廣田 誠委員、堀江伸行委員、宗像源博委員、私とで務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。皆様ご存知のように、令和6年度診療報酬改定が厚生労働省より発令され、6月1日から実施となりました。当学会から日本歯科医学会を通じて厚生労働省に申請した項目も多く含まれており、今後も皆様のご意見を伺いながら2年後の改定に向けて準備をしてまいりたいと思います。

なお、当学会が主に関係する広範囲顎骨支持型装置埋入手術と広範囲顎骨支持型補綴の一連の診療報酬をまとめて、ニューズレターの付録として掲載しましたのでご参照いただけたらと存じます。主な改定点は以下のとおりです。

- 広範囲顎骨支持型装置埋入手術の適応症が拡大され、顎骨嚢胞が加わった。
- 従来の広範囲顎骨支持型補綴物管理料が2分され、「補綴物の適合性の確認等」と「装置周囲の組織管理」とを共に行う管理料1の500点と、いずれかを行う管理料2の350点が新設された。
- 広範囲顎骨支持型補綴が増点し、ブリッジ形態のものが25,000点（1/3顎につき）と12,500点（1/3顎未満である場合）、床義歯形態のものが20,000点（1顎につき）となった。
- 「先天性の6歯以上の部分無歯症、または、前歯および小臼歯の永久歯のうち3歯以上萌出不全（埋伏歯開窓術を必要とするものに限る）であり、1/3顎程度以上の多数歯欠損（歯科矯正後の状態を含む）であること」の適用から、連続した4歯相当以上の条件が外され、歯の欠損の連続性は限定されなくなった。

《付録 令和6年度診療報酬改定》

日本顎顔面インプラント学会が主に関係する、広範囲顎骨支持型装置埋入手術と広範囲顎骨支持型補綴の一連の診療報酬を付録として掲載しました。

付録　令和6年度診療報酬改定
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
広範囲顎骨支持型補綴

1.広範囲顎骨支持型装置埋入手術（1顎一連につき）

1）1回法によるもの 14,500点
2）2回法によるもの
　1次手術 11,500点
　2次手術 4,500点
　なお、1回法による手術、2回法による手術のうち1次手術については、2/3顎以上の範囲にわたる場合は所定点数に4,000点を加算する。

[算定要件]

（1）当該手術は、つぎの①、②、③のいずれかに該当し、従来のブリッジや有床義歯（顎堤形成後の有床義歯を含む）では、咀嚼機能の回復が困難な患者に対して実施した場合に算定できる。
①腫瘍、顎骨嚢胞、顎骨骨髄炎、外傷などにより、広範囲な顎骨欠損または歯槽骨欠損症例（歯周病および加齢による歯槽骨吸収は除く）もしくはこれらが骨移植などにより再建された症例であること。なお、欠損範囲については、上顎では、連続した4歯相当以上の顎骨欠損症例もしくは上顎洞または鼻腔への交通が認められる顎骨欠損症例であること。下顎では、連続した4歯相当以上の歯槽骨欠損（歯周疾患および加齢による歯槽骨吸収は除く）または下顎骨区域切除以上の顎骨欠損であること。
②医科の保険医療機関（医科歯科併設の保険医療機関にあっては医科診療科）の主治の医師の診断にもとづく外胚葉異形成症などの先天性疾患で、1/3顎程度以上の多数歯欠損であること。または、唇顎口蓋裂等の先天性心疾患であり顎堤形成不全であること。
③先天性の6歯以上の部分無歯症または前歯および小臼歯の永久歯のうち3歯以上萌出不全（埋伏歯開窓術を必要とするものに限る）であり、1/3顎程度以上の多数歯欠損であること。
（2）当該手術の保険医療材料は別に算定する。
（3）当該手術を実施した場合は、カルテに症状、手術部位、手術内容および埋入した材料等を記載する。また、上記②に関しては主治の医師からの文書を添付する。

[施設基準]

（1）歯科または歯科口腔外科を標榜している保険医療機関であること。
（2）当該診療科にかかわる5年以上の経験および当該療養にかかわる3年以上の経験を有する常勤の歯科医師が2名以上配置されていること。
（3）病院であること。
（4）当直体制が整備されていること。
（5）医療機器保守管理および医薬品にかかわる安全確保のための体制が整備されていること。
（6）当該療養に必要な検査機器を設置していること。

2.広範囲顎骨支持型補綴

1）ブリッジ形態のもの 25,000点（1/3顎につき）、12,500点（1/3顎未満である場合）
2）床義歯形態のもの 20,000点（1顎につき）
　当該補綴物がブリッジ形態および床義歯形態の両方の形態を持ち合わせた補綴物である場合は、主たる形態のものに応じて「ブリッジ形態のもの」または「床義歯形態のもの」により算定する。

[算定要件]

（1）広範囲顎骨支持型装置埋入手術にかかわる施設基準に適合しているものとして、地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該補綴にかかわる補綴物の印象採得から装着までの一連の行為を行った場合に、補綴治療を着手した日において算定する。
（2）保険医療材料は所定点数に含まれる。ただし、別に厚生労働大臣が定める、特定保険医療材料、すなわち、スクリュー、アバットメント、アタッチメント、シリンダーに限り別に算定する。
（3）広範囲顎骨支持型装置埋入手術後、当該補綴にかかわる補綴物の印象採得から装着までの一連の行為については、当該技術に含まれ、別に算定できない。
（4）広範囲顎骨支持型補綴にかかわる補綴物の装着を行った日においては、患者に対して、当該補綴物の装着日、主治の歯科医師名、保険医療機関名および療養上必要な事項を記載した文書を提供する。
（5）口蓋補綴、顎補綴は、別に算定できない。

3.リテーナー

広範囲顎骨支持型補綴（ブリッジ形態のもの）の場合300点

[算定要件]

(1) 広範囲顎骨支持型装置埋入手術を行った場合であって、ブリッジ形態の広範囲顎骨支持型補綴を行うものに対して、リテーナーを製作して用いた場合に算定する。

(2) 当該部位にかかわる手術を行った日（2回法の1次手術を除く）からブリッジ形態の広範囲顎骨支持型補綴を装着するまでの期間において、1装置につき1回に限り算定する。

(3) 特定保険医療材料として、スクリュー、アバットメント、シリンダーに限り別に算定する。

4.広範囲顎骨支持型補綴物管理料1 500点（1口腔につき）
広範囲顎骨支持型補綴物管理料2 350点

[算定要件]

(1) 管理料1 広範囲顎骨支持型装置埋入手術にかかわる施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、広範囲顎骨支持型補綴にかかわるⓐ補綴物（歯冠補綴物、ブリッジ、および有床義歯を除く）の適合性の確認等及びⓑ広範囲顎骨支持型装置周囲の組織管理等を行い、かつ、患者または家族に対して管理等にかかわる必要な指導を行ったうえで、指導内容にかかわる情報を文書により提供した場合に、当該補綴物を装着した日の属する月の翌月以降に月1回に限り算定する。
管理料2 上記ⓐまたはⓑどちらかの場合。

(2) 当該管理料を算定する場合は、当該補綴物の調整方法および調整部位をカルテに記載する。

(3) 別の保険医療機関で装着された当該補綴物の調整を行った場合は、装着を実施した保険医療機関名および装着時期について、患者からの情報等を踏まえカルテに記載する。

5.広範囲顎骨支持型補綴診断料 1,800点（1口腔につき）

[算定要件]

(1) 広範囲顎骨支持型装置埋入手術の施設基準に適合しているものとして、地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、当該手術および広範囲顎骨支持型補綴を行うにあたって、病名、症状、治療内容、治療部位および治療に使用する材料などについて、患者に対し説明を行った場合に、手術前に1回限り算定する。

(2) 同一患者につき、診断料を算定すべき診断を2回以上行った場合は、1回目の診断を行ったときに限り算定する。

(3) 保険医療材料は所定点数に含まれる。

(4) 広範囲顎骨支持型補綴以外の欠損補綴の診断を同時に行った場合は、補綴時診断料は算定できない。

(5) 当該診断料の算定にあたっては、欠損部の状態、当該補綴にかかわる補綴物の設計および材料等をカルテに記載する。

6.広範囲顎骨支持型補綴物修理 1,200点（1装置につき）

[算定要件]

(1) 当該補綴物の修理については、広範囲顎骨支持型補綴にかかわる補綴物の装着を行った日の属する月の翌月以降に月1回に限り算定する。

(2) 広範囲顎骨支持型補綴物修理の算定にあたっては、修理の内容の要点をカルテに記載する。なお、別の保険医療機関で装着された当該補綴物の修理を行った場合は、装着を実施した保険医療機関名および装着時期について患者からの情報等を踏まえカルテに記載する。

(3) 保険医療材料は所定点数に含まれる。ただし、別に厚生労働大臣が定める特定保険医療材料、すなわち、スクリュー、アバットメント、アタッチメント、シリンダーに限り別に算定する。

7.広範囲顎骨支持型装置掻爬術 1,800点（1回を限度）

広範囲顎骨支持型装置掻爬術とは、広範囲顎骨支持型補綴にかかわる補綴物を装着した患者であって、インプラント体周囲の粘膜組織や骨組織に炎症が認められ、機械的清掃や抗菌薬投与等を行ったにもかかわらず炎症が治まらない場合に、消炎処置として粘膜骨膜弁を剥離し、インプラント体表面の汚染物質や不要肉芽の除去等を行う手術をいう。

広範囲顎骨支持型装置埋入手術にかかわる施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、広範囲顎骨支持型補綴にかかわる補綴物を装着した患者に対し、当該手術を行った場合に算定する。

《 総会・学術大会報告 》

第27回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会

大会長 国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科 矢郷 香

2023年12月2日（土）、3日（日）に第27回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会を国際医療福祉大学東京赤坂キャンパスにて現地およびオンデマンド配信によるハイブリッドで開催いたしました。国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科が主管（大会長、矢郷 香）で、実行委員長は国際医療福祉大学成田病院歯科口腔外科教授石崎 憲先生、準備委員長は三田病院川本義明先生、プログラム委員長は山王病院歯科口腔インプラントセンター小飼英紀先生に務めていただきました。参加人数は、約700名と多くの方にご参加いただき成功裏に終了することができ感謝申しあげます。12月1日（金）は三田病院で日本歯科医学会、住友雅人会長にご講演を賜った後、東京タワーの真下のレストランThe Place of Tokyoで役員懇親会を開催し、住友会長はじめ日本歯科専門医機構の今井 裕理事長、講師・シンポジストの先生方、Asia Pacific Implant Society（APIS）の台湾からの先生方にご参集いただきました。美味しいイタリアンと東京タワーの夜景をお楽しみいただけたかと思います。

学会のテーマは、「インプラント関連手術を多面的、多角的に再考する」としました。インプラントの表面構造も変遷し骨補填材など新たな材料も開発されているので、インプラント関連材料や手術方法について再考し議論を深めました。プログラムは（1）「歯科理工学から見たインプラント関連材料の変遷と今後の展望」と題した東京歯科大学歯科理工学講座教授服部雅之先生の教育講演（2）「上顎無歯顎のインプラント治療の展望」、「骨造成―失敗しないための工夫とリカバリー」、「全身的リスクファクターとなる患者のインプラント治療」、「インプラント周囲炎の対応とインプラント撤去基準」、「チームアプローチで行う広範囲顎骨支持型装置」の5つのシンポジウム、（3）医師・作家の前国際医療福祉大学特任教授の和田秀樹先生による「70歳が老化の分かれ道」と題した特別講演、（4）J.Gutenberg大学Bilal Al-Nawas教授の最新のヨーロッパの骨造成およびインプラント事情についての招聘講演（zoomによるライブ配信）（5）APIS Winter Meeting（6）今井 裕先生にご登壇いただき、日本歯科専門医機構認定の新たな広告可能な「インプラント歯科専門医（仮称）」認定にむけてのワークショップ（7）朝波惣一郎監事による「どうする健康―歯を失ったら―」と題した市民公開講座（8）一般演題セッションを企画し、どの会場も盛況で活発な討論が行われました。一般演題は口演発表58題、ポスター発表39題と計97題で、多くの演題をご登録いただきありがとうございました。ポスター発表は、ポスターin wineと称し、All-on-4®インプラント治療を開発したパウオ・マロ先生のワイナリーで造られたマロ・ワインを飲みながら、和やかな雰囲気で質疑応答が行われました。参加者からはとても綺麗な会場でプログラムも充実していたととても嬉しいお言葉をいただきました。また、久しぶりに会員懇親会もキャンパス2階のカフェテラスで開催でき、会員同士また台湾のAPIS会員の先生方との交流も深めることができました。

本学術大会開催にあたり、お忙しい中、ご講演賜りました講師の先生方、多々ご尽力をいただきましたスタッフの皆様はじめご協賛いただきました企業等、ご高配、ご協力を賜りました関係者各位に心から御礼申しあげます。

役員懇親会
日本歯科医学会 住友雅人会長
本学会理事長 嶋田 淳先生、
三田病院副院長 篠田昌宏三先生
特別講演の和田秀樹講師

開会式後の朝一番のシンポジウムから、多くの方にご参加いただきました。

APIS Winter Meeting
台湾から多くのAPISメンバーにご参集いただきました

会員懇親会
手妻（日本式手品）の催し

「インプラント歯科専門医（仮称）」認定にむけてのワークショップ
座長：嶋田 淳理事長
講師：日本歯科専門医機構 今井 裕理事長
藤井俊治常任理事

スタッフ集合写真

《 総会・学術大会のご案内 》

第28回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会

大会長 福岡歯科大学口腔インプラント科 城戸寛史

福岡国際会議場

第28回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会が2024年11月30日（土）～12月1日（日）に福岡国際会議場で開催される運びとなりました。福岡での開催は、私の前任の松浦正朗教授が大会長を務められて以来、2回目の開催となります。今回の学術大会のテーマは「多職種連携、UP DATE」です。新しい試みとして、日本顎顔面補綴学会の第41回学術大会と併催することになりましたので、大会長の古賀千尋先生と協力して、実りある良い大会にしたいと思います。

特別講演には、「歯生え薬」の開発で著名な北野病院歯科口腔外科の髙橋 克先生にご登壇いただく予定です。「歯生え薬」は、2025年度中に先天的に永久歯が生えてこない2歳から7歳の子どもを対象にした治験も検討しているということです。また、2030年をめどに、先天的に永久歯が生えてこない「先天性無歯症」の人向けの薬の実用化を目指すことが報道されています。その他、先端歯科治療に関するセッションとして、腸内細菌と歯周病の関連などの講演を予定しています。日本顎顔面インプラント学会と日本顎顔面補綴学会の共通の話題を中心に、多くの関連職種のディスカッションの場となるような内容を構築中です。さらに、例年通りAPISも併催され、日本顎顔面補綴学会の海外の参加者との国際交流の場となるような企画を検討しています。多くの会員の研究発表とディスカッションの場として一般講演、ポスター講演および企業展示を予定しています。

福岡市は、ご存知のように食文化の街です。大会の会期中は冬の味覚が始まる季節です。地元の美味しい料理や屋台めぐりなど、学会終了後には多彩な楽しみ方ができます。また、大会終了後の夜の博多は、カラフルなイルミネーションが美しい季節です。

是非、第28回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会にご参加いただき、学術と文化を兼ね備えた充実した時間をお過ごしください。

●2024年6月12日から演題募集（一般口演・ポスター）、参加登録を開始いたしました。
※演題登録締め切りは8月30日（金）です。
※事前参加登録締め切りは10月21日（月）ですので、学会ホームページ、大会ホームページから申し込みをお願いいたします。

大会ホームページ
https://jamfi-jamfp2024.com/

会場交通アクセス
https://www.marinemesse.or.jp/congress/access/

《 総会・学術大会のご案内 》

第29回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会に向けて

大会長 島根大学医学部歯科口腔外科学講座 管野貴浩

2025年11月29日（土）～11月30日（日）[理事会、運営審議委員会、各種委員会等は11月28日（金）]の日程で、松江テルサ（島根県松江市：松江勤労者総合福祉センター）およびオンデマンドにて、第29回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会、総会・学術大会を開催いたします。この学会は、口腔外科医を中心に歯科補綴医、インプラント歯科医、歯科放射線医をはじめ、多彩な歯科専門医集団による学術叡智の結集の場として先輩諸兄が築きあげてこられた長い歴史を有します。そして、学術大会は国民のインプラント治療に対する期待と、より先進的かつ安全なインプラント治療の発展に寄与することを目的とした学びの場となっています。

この度、大変栄えある大会長の任を仰せつかりました。参加くださる皆様方の期待に応えられますよう、教室員一同にて、鋭意準備に取り組む所存です。先んじて、学術大会のテーマを教室員で、検討いたしました。第29回学術大会では、顎顔面インプラント治療の先進性と安全性をさらに推進することを念頭においたテーマとし、「顎顔面インプラント治療のアウトカムとしての口腔機能評価を深考する」といたしました。

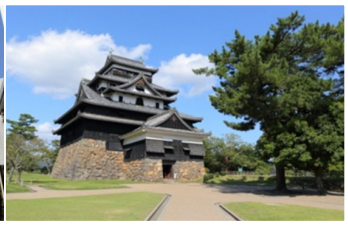
近年、小児における口腔機能発達不全症、高齢者におけるオーラルフレイルや口腔機能低下症など、各種学会は口腔疾患のみならず口腔機能の発達、維持、管理にフォーカスを当てる時代が到来しています。顎顔面インプラント学会と深く関連する、顎口腔腫瘍・顎顔面外傷・炎症性疾患・先天性疾患等の各種顎口腔外科疾患においても同様に口腔機能の著しい低下が認められ、いわゆる顎口腔機能障害が生じます。そして、われわれ歯科医師は顎顔面インプラントという先進的かつ集学的な治療手段をもって、それら疾患によって生じた口腔機能の低下や口腔機能障害の回復を図っております。したがって、日本顎顔面インプラント学会こそが口腔外科疾患における口腔機能を深く解明していく責務を負っているのではないかと考えます。「顎顔面インプラント治療のアウトカムとしての口腔機能評価」を再定義した未来には、さらなるわれわれの課題と行く先が見えてくるのではないかと期待し、第29回学術大会のテーマを決定しました。ぜひ皆様、広く多岐にわたる演題を募集いたしますので、奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願いします。

また、第29回学術大会が開催されます松江市は国宝である松江城の山下に広がる城下町であり、京都、金沢と並び日本三大菓子、茶処として有名です。松江城を囲むお堀では、城や城下町の風景を遊覧船で周回する「堀川遊覧」がございます。また、近くには全国でも有数のシジミの一大産地である「宍道湖」があり、夕方には「日本の夕日百選」にも選ばれた嫁ヶ島の残照を望むことができます。開催時期が11月ということもあり、島根の秋の味覚であるドグロをはじめとする海産物や全国で初めて同一ブランド牛が2冠達成を成し遂げた島根和牛など、山陰ならではの食事を楽しむことができます。懇親会では、より一層会員同士が気軽かつ密に交流ができることを重視し、カジュアルで打ち解けやすい雰囲気の中で地元の料理が豊富に振る舞われる会場を用意する予定です。交通面では、松江市は比較的近場に2つの飛行場（出雲縁結び空港、米子鬼太郎空港）があることから会場までのアクセスも陸路・空路の複数の選択肢があります。また、電車で40分ほど足を伸ばせば、出雲大社を有する出雲市へもアクセスできます。

第29回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会はインプラントでは顎顔面領域のインプラント治療に関する学術交流のみならず、会員の方々にとって松江市の魅力を堪能いただきながら交流いただける場となるように尽力いたします。皆様が充実したひとときを過ごせられるように、教室一丸となって準備いたします。奮ってのご参加を心よりお待ちしております。

Tel ：0852-31-5550
大会長　：管野貴浩（島根大学医学部歯科口腔外科学講座）
大会事務局 ：島根大学医学部歯科口腔外科学講座
（〒693-8501島根県出雲市塩冶町89-1）
実行委員長 ：小林真左子
準備委員長 ：辰巳博人
副準備委員長：松田悠平
運営事務局：株式会社プラスエス・アカデミー（〒591-8025 大阪府堺市北区長曽根町3-201）

松江テルサ
（松江勤労者総合福祉センター）
〒690-0003島根県松江市
朝日町478-18（JR松江駅前）



全国で現存する12天守のうちの1つで、唯一の政党天守「松江城」

「日本の夕日百選」にも選ばれた嫁ヶ島の残照と宍道湖

縁結びの神・福の神として名高い出雲大社

《 2024年以降のインプラント関連学会案内 》

学会開催予定一覧

2024年8月～2026年5月

- 2024年8月23日～24日
  第32回硬組織再生生物学会
  (大阪医科薬科大学)

- 2024年8月25日～
  第53回日本顎顔面インプラント学会 教育研修会
  (秋田大学) WEB開催

- 2024年9月16日～20日
  27th European Association for Cranio Maxillo-Facial Surgery (EACMFS)
  (Rome, Italy)

- 2024年10月24日～26日
  31st EAO (European Association for Osseointegration)
  (Milan, Italy EACMFS, Rome, Italy)

- 2024年11月1日～3日
  第54回日本口腔インプラント学会総会
  (京都国際会館)

- 2024年11月22日～24日
  第69回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会
  (パシフィコ横浜)

- 2024年11月30日～12月1日
  第28回日本顎顔面インプラント学会
  (福岡国際会議場)

- 2025年1月17日～19日
  22nd Asia Pacific Implant Society (APIS)
  (Bangalore, India)

- 2025年3月9日～10日
  2025年台湾口腔顎顔面外科学会年次総会・学術大会
  (台北)

- 2025年3月14日～16日
  第34回日本有病者歯科医療学会
  (お茶の水ソラシティ)

- 2025年5月22日～25日
  ICOMS, Marina Bay Sands
  (Singapore)

- 2025年11月29日～30日
  第29回日本顎顔面インプラント学会、23rd APIS
  (松江市)

- 2026年5月16日～17日
  24th Asia Pacific Implant Society (APIS)
  (Taipei, Taiwan)

《研修施設紹介①》

東京医科大学病院 歯科口腔外科 顎顔面インプラントセンター

センター長 近津大地 （東京医科大学口腔外科学分野主任教授）

東京医科大学病院歯科口腔外科は2010年12月に日本顎顔面インプラント学会研修施設として認定され、さらに2013年5月には、現在の顎顔面インプラントセンターを開設いたしました。近隣歯科医院からの紹介によるインプラント治療や骨造成治療、更には、外傷や口唇口蓋裂、口腔癌術後患者の顎骨欠損に対する広範囲顎骨支持型装置の治療を行っています。医科大学病院内のインプラントセンターであるため、医科からの有病者患者に対するインプラント治療の紹介が多いことが特色です。他院でのトラブル症例（インプラント周囲炎のリカバリーやインプラント体抜去）にも対応しています。昨年度のインプラント診療実績ですが、初診患者50症例、埋入手術は50症例、計90本でした。

当センターでは、全身麻酔に対応できる中央手術室、静脈内鎮静法に対応できる中央手術室分室、外来手術室等を備えています。また血液検査等を行う中央検査部、画像診断部にはパノラマX線写真、医科用CT、MRI等を有し、さらに当科にはコーンビームCT、光学印象装置、Pro Plan CMF®・Sim Plant®などのシミュレーションソフトや3Dプリンターも備えており、それらを活かした精度の高い診断・治療を心がけています。現在、日本顎顔面インプラント学会認定指導医2名、認定専門医2名、歯科衛生士6名が在籍しています。主に口腔外科の歯科医師がメンバーですが、補綴困難症例については非常勤補綴医が対応しております。初診から埋入手術、補綴治療からメインテナンスまで当科で一貫して行なっています。

研究面においては、骨免疫タンパク質であるセマフォリンを用いたインプラント周囲炎、CT画像を用いた顎骨の骨代謝などの基礎および臨床研究のテーマに取り組んでいます。また、XRとSimilar Real Patient Modelを用いた新規歯科インプラント手術教育法に関する研究も行なっております。これまで、歯科インプラントをはじめとした口腔外科手術教育は実際の患者を前にしたOn the job training（OJT）によるところが大きかったといえます。しかしながら医療安全が声高に求められる時代の背景と共に、抜歯や歯科インプラント手術などの外来手術においてはOJTの機会に制約が生じているのが現状であります。そこで従来の手術教育の欠点を克服すべく、患者CTデータから作製したVirtual Reality（VR）データを基に術前に3次元的な解剖学的情報および術式を「Input」し、さらに実物大3Dプリンティング模型「Similar Real Patient Model（SRPM）」を用いた手術シミュレーションによる「Output」までを一貫して行う、口腔外科領域における新規手術トレーニング法を確立することを目的とした研究を行なっています。なお、本研究は第26回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会、学術大会優秀発表大会長賞を受賞いたしました。

当センターでは、年に数回程度口腔外科学分野においてインプラント研修会を行なっています。座学やインプラント埋入実習などを臨床研修医やインプラント治療未経験の専攻医に行いインプラント治療の楽しさを経験してもらうことで、インプラント専門医の育成にも力を注いでいます。

《研修施設紹介②》

島根大学医学部附属病院 歯科口腔外科・顎顔面インプラントセンター

教授・診療科長 管野貴浩（島根大学医学部歯科口腔外科学講座）
講師・センター長 辰巳博人（島根大学医学部附属病院歯科口腔外科）

1975年に島根県出雲市に島根医科大学が設置され，1979年4月に医学部附属病院が開設、同年10月15日より初期設置15診療科の一つとして歯科口腔外科の診療が開始されました。島根県は中国地方の日本海側に面し、全国で19番目に面積が大きく、土地形態は東西に長く7つの二次医療圏から構成されているものの、県内の病床数の約7割が宍道湖を挟み西岸と東岸に形成される出雲市と、県庁所在地である松江市の県東部に集中しています。そのため現在の島根大学医学部附属病院においても（一社）島根県歯科医師会および各地域歯科医師会と密な連携の下で県全域を医療圏とし、特に地域とのネットワークを重視しながら院内歯科医師13名（公益社団法人日本口腔外科学会専門医/指導医2名、専門医2名、認定医2名を含む）、歯科衛生士8名で口腔外科診療を中心に周術期等口腔機能管理、特殊歯科、顎顔面インプラントセンター（自由診療部門）診療を担っています。

当診療科では、2007年より口腔癌切除後の症例に対し先進医療の承認を得て、インプラント治療を顎口腔の再建治療の1手段として積極的に用いてまいりました。その後、島根大学医学部附属病院歯科口腔外科内の1部門として、顎顔面インプラントセンターが2009年4月に開設されました。本学会の研修施設には2010年4月に研修施設第1号として認定されました。最先端のインプラント治療と再生医療の応用、コンピューターシミュレーションとガイデットサージェリーの駆使を掲げ、かかりつけ歯科医院からの紹介症例を基本とし、特に咬合支持崩壊症例や萎縮顎骨への骨造成を要するような難症例の治療を中心に集学的治療を行っています。さらに2012年に保険収載された広範囲顎骨支持型装置および補綴治療を積極的に導入しており、口腔癌症例にとどまらず、顎口腔の良性腫瘍や炎症，外傷，先天異常の症例などへ幅広く応用しています。診療実績については、歯科口腔外科全体の年間手術症例数は全身麻酔下手術およそ400例、静脈内鎮静下手術およそ800例の1200例ほどであり、そのうち顎顔面インプラントセンターでの自由診療としてのインプラント症例は2021年度が症例数47例、埋入本数89本、2022年度が59例129本、2023年度が54例125本と推移しています。一方、広範囲顎骨支持型装置および補綴治療に関しては、保険診療として導入された2012年以降よりすでに100症例を超え，そのうち顎骨再建症例（腸骨・腸骨海綿骨移植43例、腓骨・肩甲骨皮弁再建21例等）が大多数を占めています。現在はストローマン・ジャパン株式会社、京セラ株式会社、ジンヴィ・ジャパンの製品を中心に適応しています。

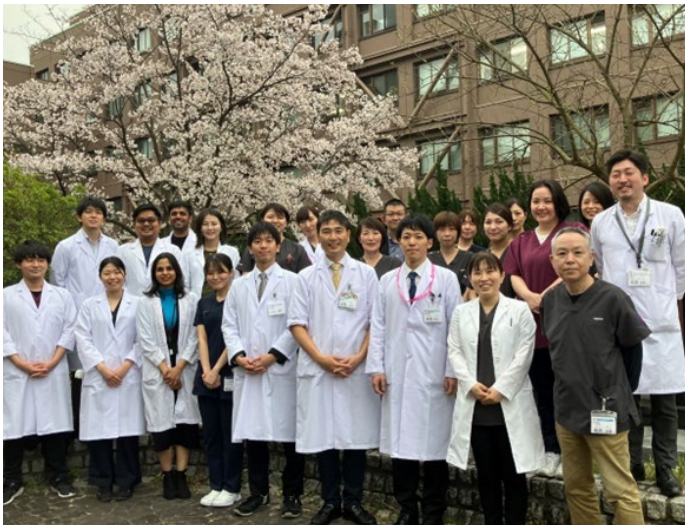
当センターは、かかりつけ歯科医院と歯周管理、残存歯治療を中心とした緊密な連携を基本方針としています。また、より精密、精巧、正確なインプラント治療を提供するため、提携歯科技工所の歯科技工士が月1回来院し連携の上で最終補綴まで診療を行っています。現在は関連施設を含め本学会の専門医/指導医2名、専門医1名ではありますが、口腔・顎顔面一単位での集学的な治療を経験し、習得・研修することができる施設です。今後も本学会と連携し1名でも多くの専門医の育成に努めてまいります。

研修施設認定1号

外来受付

顎顔面インプラントセンターロゴ

使用器材の1例


医局員集合写真

《会員情報》

会員数は2023年9月末現在1,444名
（名誉会員11名含む）

賛助会員数は2023年9月末日現在で11社です。
詳細は以下に示します。

「賛助会員」一覧　（2023年5月末日現在）

AQB・ABIインプラント株式会社
オカダ医材株式会社
オリンパステルモ バイオマテリアル株式会社
クインテッセンス出版株式会社
ストローマン・ジャパン株式会社
株式会社デンタリード
デンツプライシロナ株式会社
日本ストライカー株式会社
ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社
株式会社プラトンジャパン
株式会社モリタ
（五十音順）

《事務局からのお願い》

＜年会費納入に関して＞

年会費は自動振替ご登録の方を除き、毎年下記のサイクルで請求書をお送りしています。
第1回目：1月下旬～2月下旬
第2回目：5月中旬～7月上旬
4月の新年度以降でないと納入できないという方もいらっしゃるため、この時期にお送りしています。1回目で納入いただいていない方のみに「再送」というかたちで送付。
第3回目：8月
1、2回目で納入いただいていない方のみに「再々送」という形で送付しています。
※コンビニ決済もできるようになりました。ただ、コンビニ決済には納付期限がありますので、請求書が届いてから必ず期限内に納付ください。また、郵便振替もしくはコンビニ決済となりますので、重複してお支払いにならないようご注意ください。
※できるだけ自動振替の登録をお願いいたします。
ご希望の場合は事務局へメール　info@jamfi.net　でご連絡ください。
（件名を「自動振替」としてください。）
※このところ、勤務先や転居先の登録がされておらず「案内が届いていない」という方も見受けられますので転勤や転居された場合、必ず変更申請を提出ください。
（ホームページより用紙をダウンロードするか、メールでお送りください。あるいは、事務局へFAXください。）
※長期未納は会費規定に基づき退会扱いとなります。
会費規定に下記付則がありますので、ご注意ください。

公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 会費規程
（付則）
会費納入期限から1年を経過した時点で会費未納の場合は、事務局からの文書による通知を行う。その後1年間会費が納入されない場合には学会雑誌の発送を停止する。さらに通算3年納入が見られない場合は、定款第7条2項（3）に基づいて退会とする。

なお、再入会を希望する退会者に対しては、過去の未納分の決済を原則とし、これを理事会で審議後再入会を承認する。
この規程は、平成28年12月4日から施行する。
※退会される場合は電話では承りません。台帳に残すためにメールもしくはFAXにてその旨ご連絡ください。特に様式はございません。

＜メールアドレス登録のお願い＞

当会では、メールニュースとしてタイムリーな情報やご案内を差しあげています。
年に数回発行していますが、現在受信されていない方は是非ご登録いただきますようお願いいたします。登録先
E-mail ： info@jamfi.net
（件名を「メールアドレス登録」としてください。）

＜事務局の業務についてのお願い＞

当会事務局は少人数で運営されています。また、感染防止対策や夕方以降のWeb会議などのため在宅勤務や事務所滞在時間の短縮を取りいれております。不在でお電話いただいても応対できないなど、ご迷惑をおかけしますがご理解いただきご協力のほどよろしくお願いいたします。
お問い合わせにつきましても電話ではお受けできません。
特に、専門医関連の問い合わせを電話でいただくことがありますが、正確な回答を差し上げるため、e-mailで行っておりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

《 教育研修会のご案内 》

日本顎顔面インプラント学会 教育研修会の予定をお知らせします。みなさまの参加をお待ちしております。
※専門医、指導医申請・更新申請には本学会が主催する教育研修会の修了証が必要です。

≪第53回日本顎顔面インプラント学会 教育研修会≫
委員長：福田雅幸
実行委員長：髙野裕史
会　期 ： 2024年8月25日（日） 8：50～16:00
形　式 ： WEB開催+オンデマンド
対　象 ： 歯科医師、医師、歯科衛生士、歯科技工士など（会員、非会員問いません）
参加費 ： 12,000円（歯科医師・医師以外の学生、留学生は無料）
担　当 ： 秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科

テーマ「口腔癌の一貫治療におけるインプラント治療」

●8：50～9：00 理事長 挨拶
公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会
理事長 嶋田 淳

●9：00～9：50　講演1
座長：莇生田整治
（慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室）
演者：山下善弘
（宮崎大学医学部感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野）
「口腔癌治療のup-to-date（仮）」

●9：55～10：45　講演2
座長：河奈裕正
（神奈川歯科大学 歯科インプラント学講座 顎・口腔インプラント学分野）
演者：管野貴浩
（島根大学医学部歯科口腔外科学講座）
「上顎癌の一貫治療におけるインプラント治療」

●10：50～11：40　講演3
座長：松尾 朗
（東京医科大学茨城医療センター歯科口腔外科）
演者：山下佳雄
（佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座）
「口腔癌の一貫治療におけるインプラント治療（下顎歯肉癌症例において）」

●11：45～12：35　講演4
（スポンサード 楽天メディカル株式会社 ランチョンセミナー）
座長：福田雅幸
（秋田大学大学院医学系研究科歯科口腔外科学）
演者：長谷川温
（東京医科大学口腔外科学分野）
「頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）の概要（仮）」

●12：35～13：05　休憩時間

●13：05～13：55　講演5
座長：矢郷 香
（国際医療福祉大学三田病院 歯科口腔外科）
演者：髙野裕史
（秋田大学大学院医学系研究科歯科口腔外科学）
「口腔癌治療がインプラント治療へ及ぼす影響」

●14：00～14：50　講演6
座長：小山重人
（東北大学病院顎顔面口腔再建治療部歯科インプラントセンター）
演者：遊佐和之
（山形大学医学部歯科口腔・形成外科学講座）
「インプラント治療後の評価（仮）」

●14：55～15：45　講演7
座長：髙橋 哲
（南東北福島病院口腔外科）
演者：宮本郁也
（北海道大学大学院歯学研究科院 口腔病態学分野・口腔診断内科学教室）
「インプラント治療で生じうる併発症とその対策（仮）」

●15：45　教育研修委員会 委員長 挨拶
公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会
教育研修委員会 委員長 矢島安朝

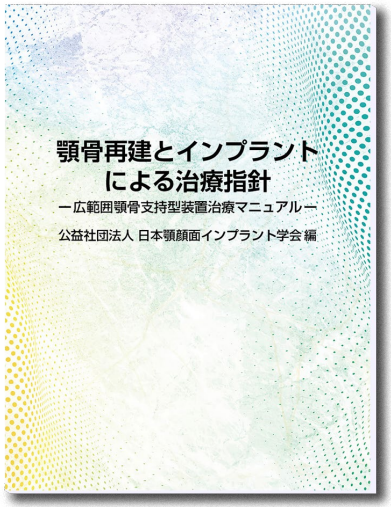
●教育研修会の申込：
学会ホームページ（Google Form）よりお申し込みください。
https://www.jamfi.net/
※お申し込み完了すると自動返信メールが登録メールアドレスに送信されますが、「迷惑フォルダ」に振り分けられることが多いのでご注意ください。
※お申し込みが完了したかわからない場合は info@jamfi.net へご連絡ください。

《日本顎顔面インプラント学会編纂書籍会員特別価格にて頒布中！》

日本顎顔面インプラント学会編纂書籍として、診療ガイドライン作成委員会による「顎骨再建とインプラントによる治療指針 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル」と、診療マニュアル作成委員会による「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」が発刊されています。

それぞれが、豊富な臨床資料に基づき解説された書籍となっております。極めて有用な書籍として、日本顎顔面インプラント学会の会員に向けて“会員特別価格”にて頒布していますので、ぜひご検討ください。

顎骨再建とインプラントによる治療指針 ー 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル ー

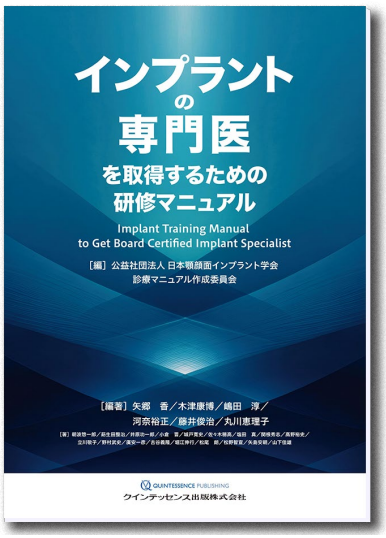


本書の特徴は全編5章からなり、従来みられなかった顎骨再建方法について総論的に解説され、さらに再建顎骨に歯科インプラントを組み合わせた機能的再建、保険導入された広範囲顎骨支持型装置治療の治療方針について、豊富な臨床資料に基づいて解説されています。

【仕様】 A4版　260ページ　カラー
【発売日】 2022年8月25日
【価格】 本体価格　10,000円（税込み11,000円）
【出版元】 （有）ゼニス出版

※会員特別価格：会員価格はおひとり1冊10,000円（税・送料込み）となります。
※右のQRコードより、詳細をご覧いただけます。

インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル



本書は、インプラントの専門医を目指す歯科医師のための研修カリキュラムに基づいて作られたマニュアル本です。カリキュラムでは、到達目標として、一般目標（general instructional objective：GIO）と行動目標（specificbehavioral objectives：SBOs）が設定さています。到達目標が確認しやすいよう、各章のはじめにGIOとSBOsのチェックリストを掲載し、さらにSBOsの細目では、修得すべきGIOを態知技のマークで記載されています。

【仕様】 A4版　176ページ　カラー
【発売日】 2023年12月1日
【価格】 本体価格　9,000円（税込み9,900円）
【出版元】 クインテッセンス出版（株）

※会員特別価格：会員価格はおひとり1冊9,000円（税・送料込み）となります。
※右のQRコードより、詳細をご覧いただけます。

JAMFI
日本顎顔面インプラント学会 ニューズレター
Newsletter No.10
発行：公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会　理事長／嶋田 淳　URL：https://www.jamfi.net/　2024年7月22日発行

編集後記

昨年末には第27回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会が国際医療福祉大学東京赤坂キャンパスにてハイブリッド形式で開催され、多くの会員の皆様が対面で意見交換ができたことで、大変有意義な学術会となりました。大会長の矢郷 香先生をはじめ、ご準備いただいた方々のご尽力に感謝いたします。また、本年は大会長の城戸寛史先生のもと福岡国際会議場で開催されますので、さらに活発な意見交換がされ盛会となるよう、多くの会員の方々にご参加いただきたく思っております。

本学会の注目すべき活動として、最近2年間で2冊の書籍を発刊したことと思います。2022年8月に「顎骨再建とインプラントによる治療指針-広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル-」をゼニス出版から発刊し、2023年12月には「インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル」をクインテッセンス出版から発刊いたしました。研修マニュアルは、本学会が作成したインプラントの専門医を取得するための研修カリキュラムに基づき、正しいインプラント治療の知識と技術を基礎から網羅した書籍となっております。そのため、インプラント歯科専門医（仮称）取得のための教科書として大いに役立つものと思っております。一方、これからインプラント治療を始めたい歯科医師のバイブルとしても役立つ内容となっております。歯科インプラントおよび顎顔面インプラント治療を行なっていく上で、大いに役立つこの2冊の書籍をぜひお手に取ってご覧ください。

本会運営にあたり会員の皆様のご協力に感謝いたしますと共に、引き続きのご協力をお願い申しあげます。

（総務広報委員会　木津康博）

【学会事務局】
公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会事務局
〒108-0014　東京都港区芝5-29-22-805
TEL：03-3451-6916　FAX：03-5730-9866
E-mail：info@jamfi.net